



プレスリリース

1. 平成 17 年 4 月 22 日第 1 回こんぶサミット in おおむら (参加者 900 余名)
2. 平成 19 年 4 月 22-24 日

オプションツアー 1：中国・大連 (参加者 17 名)

中国大連は、中国での昆布養殖発祥の地であり、今でも昆布の大生産地である。中国の昆布産業は、無から出発して、日本人大槻洋四郎氏の協力の下で、一大産業となった世界史に残る偉業である。今回はその大連で、中国の昆布養殖の歴史に耳を傾け、昆布・ワカメ養殖現場とワカメ加工現場を見学し、昆布を使った海鮮料理・海産物売場等を視察できた。訪問先：大連水産学院、大連水産養殖公司、大連百貨店、凌井大酒店、天天漁港、

3. 平成 19 年 4 月 24-26 日

オプションツアー 2：長崎県・壱岐東部漁業協同組合 (参加者 13 名+30 名)

壱岐東部漁業協同組合は、辺境の地で、漁村の産業振興を真剣に考え、「海の森づくり」に取り組んでいる数少ない漁業協同組合の一つであり、「海の森づくり推進協会」が提唱するこれからの「海の森づくり運動」のモデルであり、旗手である。今回は、その壱岐で、浦田俊信組合長から「今、なぜ海の森づくりか」と漁協の取り組みを聞き、昆布養殖現場を見ることが出来た。また、十数人の海女さんや参加者の一人渋谷正信氏らがもぐって水中ビデオ撮影をしてくださる、磯やけ漁場の回復や天然藻場の回復をつぶさに観察できた。当日取られた水中ビデオ画像は、即会場で披露された。

4. 平成 19 年 4 月 27 日 東京海洋大学楽水会館

サミット本番 (基調講演、映像の部、シンポジウム、ポスターセッション、お料理コンテスト、試食会、展示・広告等) (参加者約 200 名)

1) 基調講演：いま、なぜ海の森づくりか

21 世紀は海の時代といわれるように、海の可能性は大きいですが、我が国水産業は世間から見放され、起死回生を迫られている。ここでは、この起死回生の一手段として、栽培漁業革命としての新しい「海の森づくり運動」が提唱された。それは① 100m こんぶ種糸運動と②大規模海中林造成運動と③生産物の利活用運動から成り立っている。100m こんぶ種糸運動は、これまでの魚類など単一養殖から、海藻を入れた複合養殖に切りかえる運動である。この大規模海中林造成運動は、国策として年間約 1 万トンを生産するロープ式・浮沈式コンブ等海中林藻場造成施設を、500 の沿岸地区漁業協同組合の共同漁業権内に設置し、当該漁業協同組合が関連する行政機関並びに NPO 等と協力して、責任をもって管理し、持続的に海の森づくりを展

開するシステムである。また、コンブ等海藻の養増殖は環境浄化並びに水産増殖効果の他、食用、薬用、肥料、工業用、バイオマスエネルギー原料等としてコンブ等海藻の利活用の範囲は広い。また、地球温暖化に役立つ炭酸ガスの固定にも役立ちます。「海の森づくり推進協会」は、このような海の森づくり運動を、生態系に配慮して、既存の栽培漁業や藻場造成を補完し、北海道のコンブ業界と協力関係を樹立し、食育運動に貢献したいと考えている NPO 団体です。

2) 映像の部：映像の部では、以下の映画が上映されました。

- ① 日本水産保護協会提供「海の森づくり」
- ② 味の素食の文化センター提供「遙かなるコンブロードー北海道から沖縄へコンブが辿った道一」
- ③ 味の素食の文化センター提供「昆布繁盛記ミネラルと繊維いっぱいの健康食」
- ④ 富山テレビ提供の「日本海ルネッサンス III—創造・智の還流—」

3) シンポジウム：これまでの運動を通して、今の漁村の中に、「海の森づくり運動」に対する芽がある。その芽を育て、育むためには、環境と食育に関心の高い都市市民の協力が欠かせない。そこで、生産から消費に致る各側面出のキーポイントを7人に専門家に披露していただいた。その講師は題名は次の通り：

- ① 東京海洋大学教授 能登谷 正浩 「藻場」の考え方と造成技術に関する研究課題
- ② 日本大学理工学部海洋建築工学科教授 堀田 健治；韓国東海水産研究所 孫龍秀；東成海洋開発株式会社社長 金 榮燾
硫酸鉄を主体とした施肥材によるコンブ回復技術
- ③ 壱岐東部漁業協同組合代表理事組合長 浦田 俊信 故郷の海の森づくり
- ④ 鹿児島大学水産学部教授 門脇 秀策 環境に優しいエコ養殖
- ⑤ 東京海洋大学大学院ヘルスフード寄付講座客員教授 矢澤 一良
昆布のメタボリックシンドローム予防効果
- ⑥ 女子栄養大学フードマーケティング研究室教授 高城 孝助
コンブのマーケット開発
- ⑦ 料理家 阿部 弧柳 日本料理の真髄

4) 事例紹介

NPO「海の森づくり推進協会」が係わってきた事例は、長崎県壱岐東部漁業協同組合の事例を除いて、まだ、殆どが小規模な試験段階である。しかも、全てが広大な海で行なわれているため、水質浄化や水産増殖効果として統計的に現れていない。そこでこれまでの活動を総括する意味で、関連する16の事例が紹介された。

5) ポスターセッション・展示

いま、コンブが学会や土建業界で注目されている。その研究の最先端に触れるため、また、関連のポスターや展示が会場一杯に展開された。

6) 冊子

本サミットの84ページにわたる冊子が準備されている。希望者は事務局にご連絡ください。

海の森づくり推進協会事務局

事務局 埼玉県熊谷市月見町 1-104 Tel : 048-525-6103 Fax : 048-527-6236

E-mail : urashimataro@nifty.com <http://www.kaichurinn.com>

郵便振替番号 : 00200-1-65683